



パリからマドリッドへ旅する  
マッキアイオーリ

パリのオランジュリー美術館で開催されていた「マッキアイオーリ:1850〜1874 イタリアの印象派」展が盛況のうちに終了。秋からは、マドリッドのMAPFRE財団ミュージアムに舞台を移して公開される。

2010年に東京都庭園美術館で展覧会が開かれたことで、日本でも知名度が高まった「マッキアイオーリ(Macchiaioli)」は、イタリア統一運動(リソルジメント)期にトスカーナを中心に展開された反アカデミズムの美術ムーブメントで、「マッキアイオーリ」の名は、色彩の「斑点(マッキア)」を駆使する画法にちなむ。

フィレンツェのラルガ通りに面したカフェ・ミケランジェロに集ったマッキアイオーリたちは、ティツィアーノらヴェネツィア派の絵画にも通じる、斑点のような大まかな筆致で、自然光がもたらす陰影を表現しようとした。

ガリバルディの肖像画をはじめ、リソルジメントの激動期のイタリア人のさまざまな暮らしぶりを活写している点で、歴史的資料としての価値も高い。特にシニョリーニの『朝の化粧部屋』は、フィレンツェの娼館で化粧をする娼婦たちの朝の様子を描いたもので、ヴィスコンティの映画『夏の嵐(Senso)』にインスピレーションを与えた作品として知られる。

アカデミズムへの反発、浮世絵などのジャポニズム趣味、戸外での制作を好んだことなど、フランス印象派との共通点は多いが、二つのムーヴメントの間にはあまり交流は見られなかった。その理由としては、マッキアイオーリたちが自国の不安定な政治状況を生き抜くのに精一杯で、フランス文化の動向に目を向ける余裕がなかったことが挙げられる。それでも、イタリア旅行中のドガを、彼らはカフェ・ミケランジェロで歓待しており、ドガはマッキアイオーリを擁護した批評家でパトロンでもあったディエゴ・マルテッリの肖像画を描いている。



SPORT  
Sassuolo

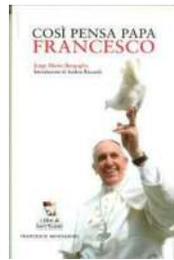


小さなクラブチームの快挙

リヴォルノを制して優勝したその日、タイルの町サッスオーロは喜びに沸きかえった。2人の退場者を出しながらもロスタイムにゴールを決めた地元チームが、セリエAに昇格したのだ。「これ以上のスリラーはない」と監督がいうほど激しい攻防戦だった。来期は、ユヴェントスやミランなど大チームと対戦する。人口41,000人のサッスオーロでは、82の工場と500の関連企業がタイル産業に携わり、全国の約80%を生産している。しかし、内外の需要停滞のために多くの工場が閉鎖され、職場も激減した。

それだけに、「ゴールは不況の特効薬」と地元期待も大きい。事業者たちは、「過去は戻ってはこない。新しい何かを創りださなければならない今、チームはすばらしい模範を示した」(セラミック加工テクノロジーの先端企業システム社代表)。「タイル産業の発展を促した1950年代の物作りの精神を呼び覚ましてくれた」(地元産業連盟会長)と快挙を称え、「これが本当のイタリアの姿。決してあきらめない小さな町」と市長も誇らしげだ。

"I poveri, i poveri. Poi, subito, in relazione ai poveri ho pensato a Francesco d'Assisi. Poi, ho pensato alle guerre... così, è venuto il nome, nel mio cuore: Francesco d'Assisi... Ah, come vorrei una Chiesa povera e per i poveri!"



コンクラーヴェ終了後、サン・ピエトロ広場に面したバルコニーにはじめて姿を見せた新教皇フランチェスコの挨拶から:

「貧しい人々。それからすぐに、貧しい人々に関連して、アッシジのフランチェスコを思いました。それから各地で起きている戦争のことを……こうしてわたしの心の中にアッシジのフランチェスコの名が浮かびました……。あゝ、なんと貧しい人々のための貧しい教会に憧れることでしょう！」

LIBRI

A PASSO DI GAMBERO  
Guerre calde e populismo mediatico

『歴史が後ずさりするとき  
— 熱い戦争とメディア』  
ウンベルト・エーコ  
リカルド・アマデー=訳  
岩波書店



“……まるで歴史が、今まで二千年間に遂げてきたジャンプに不安になって、「伝統」という、安心できる豪奢さの中へと戻りながら、からだを小さく丸まらせていくのを見ているような気がする”(序文の「エビの歩き方—歴史の後ずさり」より)

2000年初頭に書かれた一連の記事やエッセイを収録。第二次世界大戦前夜と現代とを照らし合わせ、政治家/独裁者がいかに巧みな言葉で自らを正当化し、民衆を惑わし、そして武力の行使にまで至るかを論じた「狼と羊—濫用の修辞学」など、エーコならではの明快な力強い文体と多彩な話題。



Foto: La Nazione

子どもたちの庭

朝7時半、門が開くと、近くの学校に通う子どもたちが庭を横切っていく。しばらくするとベビーカーに赤ちゃんを乗せたお母さんたちが、木陰で憩うお年寄りとおしゃべり。午後にはミニサッカー場で遊ぶ小中学生の声がきこえる。水飲み場には、特製「ミネラルウォーター」をめざして大勢がやってくる。夕方7時半、当番の人が門を閉める。

この春、フィレンツェのサン・ヤコピーノ地区に「子どもたちの庭」が誕生した。壁のペンキ塗り、花壇、遊具、ベンチ……どれも地域の住民たちの手作り。使わなくなった本やおもちゃを持ち寄って青空マーケットを開いたり、中学生のバンドやバレエ学校の参加によるフェスタを企画したり、子どもたちのために充実した活動をつづけている。「今日の土曜日、雨が降らなければ露店がでますよ」「掲示板もときどき見てね」と、呼びかけも欠かさない。地域の住民が自分達の時間を少しだけ割くことで、工場の跡地は、鳥がさえずり、木々の緑が清々しい空間として生き返った。

\*\*\*\*\* Italia in Giappone \*\*\*\*\*

TEATRO ALLA SCALA  
ミラノ・スカラ座



2013年日本公演  
〈ヴェルディ生誕200年祭〉

『ファルスタッフ』

9月4日 指揮:ダニエル・ハーディング  
9月6日 演出:ロバート・カーセン  
9月8日 出演:アンブロジーノ・マエストリ、他  
9月12日  
9月14日 会場:東京文化会館(上野)

『リゴレット』

9月9日 指揮:グスターボ・ドゥダメル  
9月11日 演出:ジルベール・デフロ  
9月13日 出演:レオ・ヌッチ、他  
9月15日 会場:NHKホール(渋谷)

ミラノ・スカラ座管弦楽団 特別演奏会

ダニエル・ハーディング指揮 〈オペラ名曲集〉  
9月5日 会場:東京文化会館(上野)

『ロミオとジュリエット』 スカラ座バレエ団

ケネス・マクミラン振付 セルゲイ・プロコフィエフ音楽  
9月20~23日 会場:東京文化会館(上野)

お問い合わせ:NBS 03-3791-8888

\*\*\*\*\*

AIGDC (日伊比較法研究会)

Associazione Italo-Giapponese  
per il Diritto Comparato

日伊比較法研究会の「第1回研究大会」が2013年6月29日、「イタリアと日本における法と正義」をテーマに、イタリア文化会館で開催された。その内容は:

- 人々の衝突、法律の衝突「合憲性統制の日伊比較」
- 震災と法
- 消費者法と倒産法の法モデルの流通
- 「倒産法の構造と免責について:日本及びイタリアにおける比較法」
- 刑法における日伊比較
- 日本から見たイタリアにおける犯罪者処遇

研究大会後の「創立総会」では、イタリア法の手引き(日本語)(Manuale sul diritto italiano in lingua giapponese)と、日伊法律辞典(Dizionario giuridico italiano-giapponese)の出版に向けた準備が決議された。

Italiano ⇄ Giapponese  
イタリア語 ⇄ 日本語

翻訳  
Traduzione

各種証明書・契約書  
音楽・美術・法律  
レター・論文・マニュアル  
ファッション・ホビー・料理

通訳  
Interpretariato

同時・逐次通訳  
商談・テクニカル通訳  
記者会見・セミナー  
インタビュー・オペラ

tel: 03-5296-1930  
fax: 03-5296-1940

アド・イタリア株式会社

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-19-14

AD ITALIA Co., Ltd.

2-19-14 Sotokanda, Chiyoda-ku, Tokyo

ad@ad-italia-tokyo.com

http://aditalia.jp